

# 初教 KAWARABAN

第16号  
2014.7.25

広島文教女子大学  
教育学会 発行

## 教育学会三十周年記念の「挨拶」 学科長 高橋 泰道

「初教かわらばん」の読者の皆様、日頃より、大変お世話になっております。

本初等教育学科は、今年三月に、三十期生二二六名が旅立ち、四月に、新しく二二八名の新生(三十四期生)を迎え、学生数四九六名の大所帯となりました。また、教員の方も、三月に、新宅雅和先生が定年で退職を迎えられ、同時に植田ひとみ先生、大山綾子先生も退職され、四月には新たに白石崇人先生、大野内愛先生、黒田愛乃先生をお迎えし、総勢二十名で、学生の夢の実現に向けての教育支援を行っているところです。

今年度は、私たちが集う広島文教女子大学教育学会も創立三十周年を迎えることとなりました。そこで、本稿を借りて、簡単に初等教育学科と教育学会の三十年を振り返ってみたいと思います。

本教育学会とは、「実践力のある女教師の育成」をめざして、昭和五十六年(一九八一年)四月に初等教育学科が開設されたのを機に、「児童期の教育方法を科学的に追求する」という目標を定めて発展させるために、学会の組織がつけられました。そして、準備期間を経て、昭和六十一年(一九八五年)より毎年、春には定期総会、秋には研究発表大会が開催されることとなり、現在に至っています。

本初等教育学科は、平成二年度(一九九〇年)より定員が八十名となり、それに伴って、「学校教育コース」と「情報教育コース」のコース制が導入されました。そして、平成六年度(一九九四年)からは、短期大学部幼児教育学科の廃止に伴い、「学校教育コース」が、「児童教育コース」と「幼児教育コース」に分かれ、さらに平成十一年度(一九九九年)に「教育心理学コース」が増設され、四コース制が確立しました。その後、平成二十一年に「情報教育コース」、平成二十四年には「教育心理学コース」が、それぞれ発展解消し、現在では、小学校教員採用試験で全国レベルの実績を誇り、多数の小学校教員を輩出している「児童教育コース」と、創設以来高い就職率(現在八年連続就職率一〇〇%)を維持している「幼児教育コース」の二コース制になっています。

最近では、中央教育審議会答申の「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」に伴い、これまでの授業の在り方を見直すとともに、昨年度からiPad miniを導入し、学生全員に配付するなど、アクティブラーニングによる



教員と学生との双方向性の授業も展開しています。また、小中連携を見据えて中学校教員免許(国語・英語)の取得も可能となりました。その他、現場教育に対応した実践力を培うために、教職実践演習室や模擬保育室も整備し、教育の充実を図っています。

この度、このような歩みをして参りました本初等教育学科の教育を支えてきた文教教育学会が創立三十年という節目を迎えるにあたり、秋の研究発表会を三十周年記念大会として開催することにいたしました。会員による実践研究発表の分科会を複数準備することにも、記念講演として、「魔法の宅急便」の原作者である児童文学作家 角野栄子先生をお招きし、一層の学びを深めることができたと考えております。また、懇親会も記念祝賀会として開催し、多くの会員の皆様に参加していただき、学会の三十年を振り返り、会員相互の交流を深めていただければと願っております。

会員の皆様におかれましては、お忙しいとは存じますが、今回の記念大会をぜひ実践研究の発表の場、卒業生と教員並びに学生・同期生同士の交流の場としてご利用いただければと存じます。

また、今後も学会誌への投稿、あるいは研究発表会への参加・発表、「かわらばん」やホームページの有効利用等により、卒業生相互、学生にとつての学びの場、交流の場となりまします。今後とも、本学会に対して、さらなるご支援を賜りますようお願い申し上げます。よろしくお願い申し上げます。

## ★県人会の★紹介

文教はいろいろな県から学生が集まっているのも一つの特徴です♪

そのため、同じ県や地方の学生や教員が集まって交流をしています。これが県人会です!

県人会は「開催したい!」と思ったらどこの県でも開催可能です!

県人会では自己紹介やしりとり席順をくじで決めたりして他学年や教員と仲良くなれるところがいいところ♪

同じ県や地方だからこそわかる「地元トーク」もたくさんできます!いつも以上に方言も飛び交っているようです!

次に開催されるのはどこの県でしょうか!? 今から楽しみです♪



山陰県人会



長崎県人会

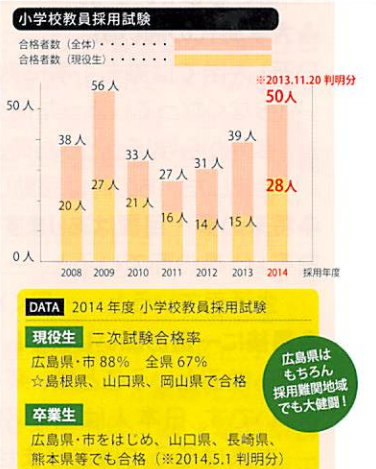


## トピック

### その① 小学校教員採用試験で全国レベルの実績

2年生の観察実習で培われた教職に対する意欲をベースに、3年生秋の本実習を終えた時期から、卒業後の進路に向けた取り組みが本格化します。全学年が交流する県人会(本誌に詳細掲載)や2年生からの各専修(ゼミ)により縦の関係が築かれ、先輩から後輩へと採用試験に向けた取り組みが継承されています。3年生後期から、学生が運営を検討しながら、組織的に動いて学修を進めます。学生の主体的な集団学修により採用試験対策に取り組んだ成果が実を結んでいます。

平成26年度小学校教員採用試験では、現役生合格率(二次試験)が広島県・市で88%、全県でも66%という高い合格実績を上げています。



### その② 幼児教育コース 8年連続就職率100%

幼稚園・保育所・認定こども園・施設といった幼児教育・保育の専門職への就職を希望する学生が、全員採用試験を突破し、8年連続で100%の就職率を更新しています。幼児教育コースは、就職活動が一人ひとり異なり多様ですが、4年生の4月から一人一役を担う自治組織を作り、教員に依頼して課題克服のセミナーを開いたり、「みんなでやろう会」という自主勉強会を実施したりして、工夫し支え合って学修しています。近年は、2桁倍率の難関公立幼稚園・保育所への就職も果たしています。学びの成果が、夢の職業への就職につながっています。

Information plus

### 幼児教育コース

1995年に幼児教育コースを創設以来、高い就職率を維持!!

卒業年	幼稚園	保育園	認定こども園	就職率
2014	12	27	8	100%
2013	8	29	3	100%
2012	9	14	5	100%
2011	8	32	-	100%
2010	9	24	-	100%
2009	8	11	-	100%
2008	11	25	-	100%
2007	14	22	-	100%

8年連続就職率100%

### その③ i-padを活用した授業の学び

昨年度入学生よりi-padを配付し、段階的に授業に導入しています。国語概論では、講義の導入において、i-pad画面に選択肢を提示し、教授内容に対する興味・苦手意識の度合いや既存の知識・認識を把握しています。講義中には、学修者の実態を把握し、講義の展開につなげることが可能となります。情報は即時統計処理して学生に提示します。受講生からは、人に左右されず意思表示が出来る、全体の傾向が分かって楽しく学べると好評です。また、授業の学びや質問をi-padに入力させ、講義者が確認しています。発言を促すと尻込みする学生も、入力画面上では饒舌で多くの情報が入手できています。講義途中に実施することで、理解度を正確に把握でき、学生が受講態度を見直す機会にもなっています。



このように様々な授業で、i-padを活用した授業を展開しています。今後もi-padを活用し、アクティブラーニングを確立する中で、学生の主体的な学びを促進し、学びを深めるための活用方法を検討していきたいと思っております。